

Economic Indicators

発表日:2021年5月31日(月)

鉱工業生産指数(2021年4月)

～設備投資需要の回復やIT関連需要の高まりを背景に、生産の水準はコロナ前の水準に～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 小池 理人(Tel:03-5221-4573)

(単位:%)

		鉱工業生産						資本財(除く輸送機械)		消費財			
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷			
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比		
20	1月	▲1.2	▲2.6	1.1	▲3.3	1.8	3.6	0.3	9.9	▲2.2	0.3	2.2	▲4.6
	2月	▲0.4	▲5.8	0.4	▲5.4	▲1.4	1.5	▲1.8	9.7	▲2.0	▲6.0	0.3	▲6.4
	3月	▲2.5	▲5.4	▲4.8	▲6.5	0.7	2.8	6.6	13.5	▲5.2	▲9.3	▲3.5	▲6.6
	4月	▲10.3	▲15.5	▲10.3	▲17.0	0.0	2.6	13.3	29.7	0.0	▲8.1	▲13.8	▲20.1
	5月	▲10.5	▲27.0	▲9.8	▲27.5	▲2.4	▲0.3	9.4	43.5	▲5.5	▲21.5	▲4.5	▲25.7
	6月	4.9	▲18.4	6.9	▲16.7	▲1.8	▲3.3	▲8.1	23.9	4.5	▲9.0	6.9	▲15.4
	7月	6.9	▲15.9	5.3	▲16.8	▲1.3	▲4.7	▲7.6	18.5	▲0.8	▲14.1	7.8	▲11.5
	8月	2.0	▲14.0	2.3	▲14.3	▲0.9	▲5.6	▲2.4	13.9	▲3.8	▲21.0	1.3	▲10.8
	9月	3.7	▲9.1	3.8	▲9.6	▲1.0	▲5.7	▲4.2	7.6	2.2	▲20.5	3.4	▲4.7
	10月	2.1	▲3.4	2.2	▲3.3	▲1.0	▲8.1	▲3.5	▲0.4	3.0	▲0.6	1.4	▲0.1
	11月	0.7	▲4.1	0.9	▲4.1	▲1.2	▲9.1	▲1.0	▲1.0	3.7	5.7	▲1.3	▲5.6
	12月	▲0.2	▲2.9	▲0.6	▲3.2	0.6	▲8.4	0.1	▲2.5	▲1.1	▲5.4	▲0.3	▲2.7
21	1月	3.1	▲5.3	2.9	▲5.3	▲0.9	▲10.2	▲4.9	▲3.9	9.6	▲0.4	0.6	▲6.1
	2月	▲1.3	▲2.0	▲1.3	▲3.2	▲0.7	▲9.5	1.0	▲4.4	▲0.9	6.3	▲1.5	▲4.1
	3月	1.7	3.4	0.4	3.4	0.4	▲9.8	0.2	▲11.4	▲4.7	8.2	0.1	0.8
	4月	2.5	15.4	2.6	15.7	▲0.1	▲9.8	▲1.8	▲21.5	15.2	21.3	▲0.4	13.7
	5月	▲1.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6月	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)21年4月、5月は、製造工業生産予測調査の数値

○設備投資需要の回復や半導体を中心としたIT関連需要の高まりを背景に、生産はコロナ前の水準に

経済産業省より発表された4月の鉱工業生産指数は、前月比+2.5%と2か月連続のプラスとなり、新型コロナウイルス感染拡大前(2020年1月)の水準を上回った。経産省の補正試算値(同+4.6%)や市場予測値(コンセンサス:同+4.0%、レンジ:同+2.4%~同+5.2%)を下回る結果とはなったものの、内外での設備投資需要の回復や半導体を中心としたIT関連需要の高まりを背景に生産は増加基調を維持している。

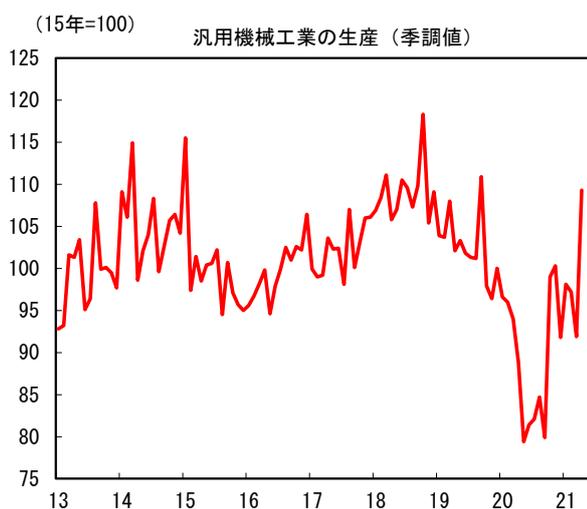
内訳をみると、半導体不足の影響により自動車工業が前月比▲0.8%と低下した一方で、汎用・業務用機械工業(前月比+16.1%)や電気・情報通信機械工業(同+10.9%)、生産用機械工業(同+7.8%)、電子部品・デバイス工業(同+5.8%)などが上昇した。内外での設備投資需要の回復や半導体を中心としたIT関連需要の高まりを背景に生産は増加基調を維持している。

出荷指数も、前月比+2.6%と大きく上昇している。特に、資本財(除く輸送用)が同+15.2%と高い伸びとなっており、旺盛な設備投資需要が出荷指数を押し上げていることが示されている。出荷指数が伸びる中で、在庫指数は同▲0.1%と低下し、在庫率指数は同▲1.8%と2019年5月以来の水準となるなど、今後の生産増加にも期待が持てる内容だ。

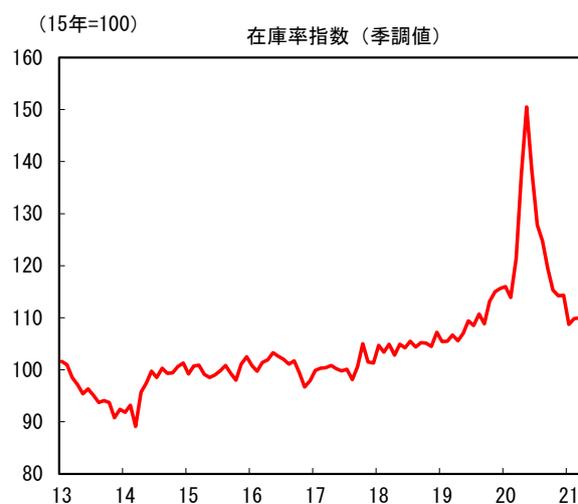
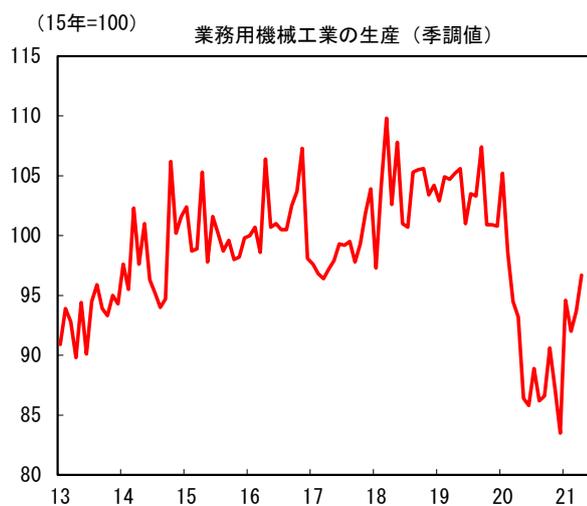
○4-6月期も生産は底堅い推移が継続することが見込まれる

同時に公表された製造工業生産予測指数では、5月が前月比▲1.7%、6月が同+5.0%となっている。予測指数の下振れバイアスを考慮した経済産業省の試算値では5月は前月比▲2.5%である。なお、こ

ここで仮に5月が経産省試算値通り▲2.5%、6月が予測指数通り+5.0%となれば、4-6月期の生産は前期比+3.1%となる。半導体不足の影響長期化や変異種による感染拡大といったリスクは燻るものの、4四半期連続の増産となる可能性は高いだろう。予測指数の内訳をみても生産用機械工業や電気・情報通信機械工業等で上昇基調の推移が見込まれていることが示されている。なお、半導体不足の問題を抱える輸送機械工業については、5月に前月比▲15.3%、6月には同+18.5%が見込まれている。輸送機械工業の5月の修正率は▲7.1%と大きなマイナスとなったことから、半導体不足の問題は先月時点での見込み以上に深刻である可能性が高い。今回調査においても世界的な半導体不足の影響が十分に織り込まれていない可能性があることから、下振れリスクにも注意を払う必要があるだろう。もっとも、輸送機械工業は引き続き下押し圧力となるものの、今後も国内外での生産用設備投資需要が生産を牽引することで、全体としては堅調な推移が継続することが見込まれる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

